

制服のあり方検討委員会だより 第3号 2024年4月8日発行

《発行》浜松市教育委員会 教育総務課（電話：457-2401）

アンケート調査の結果から、機能性や実用性、価格面を改善してほしいというニーズが高いこと、制服について困難や不安、不満を抱えている子供たちがたくさんいることが分かりました。また、多くの自由意見が寄せられ、中学生はもちろん、小学生や保護者の関心も非常に高いことを改めて認識しました。

第2回では、アンケート調査結果を踏まえた意見交換を行い、委員や有識者からさまざまな意見が出ました。



制服はアイデンティティと密接に結びついている。学校の制服がなくなるということは、浜松市の中学生であるというアイデンティティは持つが、中学校単位の区別は多分なくなると思う。その場合どこに学校ごと違いを置くのか。

制服を前提とした上で、もっと要望に応じた形に機能面やデザイン面、価格等を見直していくという方向がよいのではないかと。

市統一制服はコスト面でありだが、その際は統一性と多様性を両立させることが大事。

制服から校内着に着替えるということをルール化しているのであれば、着替え場所や制服を置く場所などの配慮は今すぐの改良点ではないか。

この委員会での検討状況をわかりやすく広報することも必要。

小学生は、制服を通して中学生への憧れや期待を持っているような印象を受ける。また制服をおしゃれとして捉えている子もいる。

アンケートによって、制服で苦しんでいる子供がたくさんいることがはっきり出てきたことはよかった。一部の子供への特別な許可ではなくて、全ての子供の性自認が尊重され、自分の着る服を自分で選択できる。これらが当たり前になることは、全ての子供の安心安全につながる重要なことである。

国の『こども基本法』や『こども大綱』などにもあるように、多様な子供たちの意見を聞いて、全ての子供たちが一人残らず認められている、尊重されていると感じる、そういう場ができていくことが一番大事だと思う。

やはり制服は高い。入学の時には、制服以外にジャージや体操服、カバンなどを一気に買わなくてはいけなくて負担が大きい。

みんなが同じように着なければならぬもの（制服）を考える場ではなく、標準的なもの（標準服）を考える場として意見をまとめていってはどうか。

中学校では、義務教育を終えて社会に出ていく子供たちが困らないように、ルールやマナーの一つとして、TPOに応じた服装で臨むということを教えていくことが大事だと思っている。

子供たちは大体大人と同じことを考えていて、すでに論点を持っていることに驚いた。そこを改めて認識しながら、子供たちが何をどう考えているのかを中心に議論を進めていくことが重要。

こうした意見を踏まえ、検討委員会としては「市内統一の厳格なルールや基準を決めるのではなく、各中学校が制服本体の見直しや運用ルールを考えていく上での判断材料となる項目について協議していく」という方向性を確認しました。次回は、今後協議して論点について整理を行う予定です。

会議の資料や会議録は市公式HPで公開しています。

市公式HP ⇒ 子育て・教育 ⇒ 教育施策 ⇒ 浜松市立中学校における制服のあり方検討委員会

URL : <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/somu/sesaku/seihuku/top.html>

